

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990400034
法人名	社会福祉法人 やすらぎ会
事業所名	グループホーム むつみあい
所在地	奈良県天理市福住町5504番地
自己評価作成日	2013.8.25
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成25年9月26日
評価結果決定日	平成25年10月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の生活の場であるというノーマライゼーションの理念を基に、人を助けてわが身たすかるという‘おもい’をもって地域に密着し、開かれた施設を目指しています。  
 施設内では清潔さを保持し、食事に関してのレクリエーションを積極的に行っています。  
 その他、法人内の他事業との交流や、地域での催しの参加、外出・買い物に出かけ、季節を感じていただける取り組みを行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな所にあり、居室の窓からも四季折々の景色が見られます。ホーム内は風通しが良く日光が差し込みとても明るく感じられました。月に一回地域の行事に参加されたり、外注では地域のお店から頼まれたりと地域との関わりを大切にされています。入浴は週3回を基本とされ、利用者の生活習慣や希望に合わせ、夜間入浴にも対応出来るよう勤務調整もされています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: )	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

ユニット名 ( ほほえみ )

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の外部評価時に事業所の理念がないことを指摘頂き、「入居者様の人格・尊厳を守り、地域の皆様とのふれあいを大切に、その人らしく暮らせる生活を送っていただけるよう支援します」の理念を掲げ、会議等の中で、基本となる部分を理解するように心掛けている。また、エントランスに掲示・議事録掲載し、職員の意識を高めている。	「入居者様の人格・尊厳を守り、地域の皆様とのふれあいを大切に、その人らしく暮らせる生活を送っていただけるよう支援します」という理念を掲げ、会議の中でも理念を共有して実践につなげています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館行事(月1回)及びその他イベントにも積極的に参加・近隣スーパーに出かけたり、外出・外食など積極的に出向くようにしている。	地域の夏祭りや、月に一回ふれあい教室に参加されています。又、ホームに地域のボランティアの方が来園されたりと積極的に地域との交流を図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の際に積極的に地域の方々と関わりを持つ。また家族様からの相談を随時受けつけたり、運営推進委員会にて地域の代表の方や包括職員等に事業所の取り組みを伝え、情報の共有を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、入居者様・(3回に1回程度)家族様・民生委員・行政などと積極的な意見交換・情報交換を行い、問題点や希望などを明確化し、改善・サービス向上に向けて取り組みを行っている	二ヶ月に一回開催されています。活動報告や、事故報告など話され、意見を頂きサービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等来園していただいた際や行政に出向いた際に必ず情報伝達するとともに、事業所の取り組みを知ってもらうために事業所の広報誌等を作成し、市担当者会議等に積極的に参加して、行政や他事業所に配布している。	市役所職員が推進会議にも出席する事で施設の実績を理解してもらったり、法人職員が市役所に出向き利用者の相談等を行ったりし、協力関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年まで身体拘束者がいましたが、ケース会議(見守り・環境を整える・業務分担・職員配置の検討等)を何度も開催し、現状は身体拘束しないケアを実施。また、継続的に施設内研修にて身体拘束・虐待についての勉強会を実施している。	玄関は施錠しておらず、自由に行き来される状態になっています。又、身体拘束のマニュアルがあり、研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加して理解を深め、伝達研修を行い、周知徹底している。特に入浴介助時や排泄交換時など、身体観察を強化している。また、継続的に施設内研修にて虐待についての勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加して理解を深めているものの、更なる勉強の機会を増やし、内容の理解ができるように取り組む予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容をお互いに行い、不安や疑問点が残らないように都度説明を行い、理解していただいている。また、解約時・改定時等も説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などの声掛け・定期的な家族様への近況報告している。入居者様の訴えや家族様の要望など、意見を積極的に吸い上げ即対応し、サービスの向上を目指している。また、エントランスに意見箱も設置。及び年1回の家族会にてアンケートを実施している。	玄関前に意見箱を設置したり、年に一回家族会議を行い意見や要望を聞かれています。又、面会時にも積極的に意見を聞かれ、面会に来られない家族に対しても、電話や月に一回手紙を聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度、意見や提案が出来るように積極的にコミュニケーションを図っている。また、隔月で定例会議・ユニット会議を実施し、意見や提案を聞く機会を設け、日常的に反映できるように取り組んでいる。	隔月で定例会議・ユニット会議で意見や提案を聞く機会をもたれています。又、日頃から何でも話せる関係作りがされており、日常的に意見が出されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望をできるだけ反映したり、有給休暇も積極的にとれるように配慮している。また、個々の能力やキャリアに応じた役割を増やし、やりがい・スキルアップに繋がるように実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアに応じた外部研修に積極的に参加し、施設内研修・伝達研修等を実施している。また、未経験の職員も多数いるため、他施設見学を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業との人事交流を実施、また地域連絡会への参加・他施設見学を実施し、情報交換・意見交換を行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談・入居オリエンテーション時に、アセスメントしながら、困っていることを明確にし、これからの不安や要望などに対してどの様に対応していくか、理解していただくまで説明を行い、不安解消に努めている。(ご家族様同席)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談・入居オリエンテーション時に、アセスメントしながら、困っていることを明確にし、これからの不安や要望などに対してどの様に対応していくか、理解していただくまで説明を行い、不安解消に努めている。(本人様同席)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談・入居オリエンテーション時また、ケア会議等で身体状況等に確認や入居者様家族様の要望を確認し、ケアの方向性や統一ができるように検討し、共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはご自身でしていただくように声掛けを行っている。また、日用品・食材等の買い物付き添いや食事の準備など、日常生活の中でお手伝い頂く機会を設け、関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行い、定期的に家族様に手紙・広報誌を送付し、普段の様子や身体状況を報告、また職員のみで判断せず、家族様にも都度相談報告し理解を得ている。施設行事への参加も積極的に呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での行事に参加・個別要望も含め外出の機会を多く持ち、今まで過ごしてこられた環境や関係が築けるよう努めている。	知人の方が来園されたり、電話やはがきを出され、馴染みの人との関係が途切れないよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間での交流を持ったり、職員が間に入って関わることで、良好な人間関係が保てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報の確認ができる時は経過確認等を行っている。また、連絡いただければ、いつでも相談・支援させていただく旨を伝え、実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に沿った援助・その都度対応ができるように心掛けている。本人様からの意向の確認が困難な時も、家族様の協力も得ながら本人様本位になれる対応を心掛けている。	入所時に本人の希望、家族の希望を聞かれており、入所後も本人の希望に沿って生活されております。把握が困難な方は、本人の気持ちに添って意向を把握する様努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談・入居オリエンテーション時に確認を行い、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子を細かな記録をとり、身体状態・精神状態等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、可能な反映で来所または電話連絡等で相談している。また、本人様・家族様等との会話や普段の様子から、より多くの情報を得て、その方に即した介護計画の作成を心掛けている。	毎月利用者の状態について話し合いを行なっています。6ヶ月に一回ケアプランの見直しを行っていますが、状態の変化によってその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な内容の記録を心がけ、職員間での情報の共有に役立てている。見えてきた問題点や改善点を明確にし、介護計画に反映し、普段のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内での行事に積極的に参加し、日常的に交流の機会を持つように心掛けている。外出の機会を多く持ち、様々な方と接する機会を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催し等積極的に参加している。法人内の研修にも積極的に参加し、交流できる機会を多く持っているように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の主治医の定期的な検診と、以前からのかかりつけ医との関係を可能な範囲継続し、希望に沿った対応に努めている。	可能な範囲で、利用者・家族の希望する医療機関を受診でき、通院介助も行われています。また事業所の主治医の定期的な検診も行われています。受信結果に関する情報を話し合い共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護職との情報共有・意見交換を積極的に行い、本人様に適した受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院職員とこまめに連絡をとり、状況の確認を行っている。また面会も積極的に行い、状況の確認・退院後の受け入れ態勢の確認をおこなっている。また、それ以外でも病院を訪問し、病院職員との関係を保てるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後身体状態の変化時や終末期に向けての本人様・家族様の意向確認を行い、事業所の方針とともに確認できるように、普段からこまめに連絡を取り合っている。また主治医と相談しながら、事業所のできることを説明しケアを行っている。	終末期の対応も行ったことがあり、重度化や終末期に向けた方針を、利用者・家族の希望に添えるよう入所時に話合われています。主治医と職員が連絡をとり連携し、事業所のできることを説明し支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうるであろう項目ごとにマニュアルを整備し、職員に周知するとともに、年1回緊急時対応の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、意識の向上に努めている。また、法人内にて災害に備えての備蓄を行っている。今後は、地域に協力体制を求める等働きかけていく予定である。	マニュアルも作成されており、年2回、消防署の立ち合いで避難訓練が行われています。法人内に備蓄もされています。地元の消防団と年1回話をする機会を設けられています。	地域との協力体制の働きかけを予定されており、今後、協力体制が築けるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧且つ尊厳ある声掛けを行うよう徹底しているものの、まだまだ指導も必要な状況である。個々の空間を大切に、プライバシーに配慮できるように環境を整えている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを考え、思いや気持ちを大切にされ、自己決定しやすい言葉かけをされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に自己決定していただけるような声掛けを行うよう配慮したり、思いや希望が実現できるように取り組みを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の思いや家族様の希望を受け止めながら、その方にあったペースで生活を送っていただけるように援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の洗濯と、希望される衣類の着用をしていただいている。定期的な理容訪問や髪染めに外出したり等している。また、外出時には化粧して出かけることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前食等で希望されるメニューを提供したり、昼食レク・おやつレクを各週1回行うなど、普段と違う形で一緒に調理ができるよう機会を設けている。また、入居者様と職員と一緒に食事をする機会も設けている。	昼食レク、おやつレクとして、週1回調理や準備を一緒にされたり、利用者の好みや希望のメニューや外食・出前もとられ、楽しく食事ができる支援がされています。畑で採れた野菜などを食材としても利用されています。	今後、昼食レクやおやつレクの回数を増やしていく予定なので、一緒に調理する機会が増えることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、状況把握に努めている。また、個々に適した食形態にて提供し、安全な食事が摂れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・口腔内清掃を行い、清潔保持に努めている。また、歯科衛生士からもケア方法についての指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、排泄のリズムをつかみトイレ誘導を行うタイミングを工夫している。	排泄表を活用し一人ひとりの行動や排泄パターンを把握し、トイレ誘導に活かされています。オムツの使用を極力さげ、トイレでの排泄を大切にされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた献立作成と水分摂取を促している。また、レクリエーション時に運動する機会を設け、便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3日の入浴を基本とし、その日の体調や希望によって入浴を実施している。法人内の大浴場に出かけたり等、楽しみとなる時間を持つよう工夫している。	週3回の入浴を基本とされ、利用者の生活習慣や希望に合わせ、夜間入浴にも対応出来るよう勤務調整もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状態に応じて寝具を選択し、安全・安心して休んで頂けるように配慮している。本人様の生活のペースを把握し、配慮しながら援助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護職員・薬剤師から薬についての情報を得て、職員間で目的や副作用等の理解と共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの経験を活かして畑仕事・大工仕事・家事等、今までの生活歴から楽しみや役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺散歩を日常行っている。外出の機会も多く設け、希望される所への外出・外食を行うとともに、定期的に遠出する機会も設けている。	日常的に園内の散歩や買い物に行かれています。また利用者の希望される所へ個別に行かれたり、地域の行事に参加されたり、積極的に外出できる支援がされています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は、所持していただき外出時に支払いをしていただいている。管理できない方は、金庫にて財布をお預かりし、職員立ち合いで支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用される場合は、事業所の電話を使用して頂き、家族様やご友人に連絡をとっていただいている。希望に応じて電話の取り次ぎや手紙の代筆等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるような飾り付けを一緒に作成したり、展示したりしている。くつろげるスペースがあったり、他者との交流が持てるように場所の配慮を行っている。	共用空間は広く、明るく風通しよく居心地のよい空間になっています。ホールには、利用者の方にあった畳やソファが配置され、他者との交流やくつろいで過ごせる場所になっています。利用者の方と作成された作品も飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろげるスペースを設置し、個々にくつろいでいただけるスペースを作っている。(H25.9畳スペースを確保していたが、使用されることがない為、撤去し利用希望のあるソファスペースを拡大する予定である)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用されていた物や思い出の品物を置いていただき、本人様が心地よく過ごせるように家族様や職員とで工夫している。	全ての居室は和室で、利用者の方や家族の意見を聞かれ、テレビや仏壇、家具など以前より、使い慣れた物が、持ち込まれ居心地よく過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかりやすいように表示したり、廊下に手すりを設置し、安全に移動できるように配慮している。		